

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立八景中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基盤として、未来を創造することができる社会の形成者を育成することをめざして、次の目標を掲げる

(1) 自律 自ら考え、判断し行動する
 (2) 尊重 違いを理解し、他者を尊重する
 (3) 創造 豊かな発想を持ち、創意工夫する

2 今年度の学校重点目標

- (1) 自尊感情を高める
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- (3) 信頼関係に基づく生徒指導
- (4) 人権教育・特別支援教育の充実
- (5) 家庭・地域との連携と協働
- (6) 働きがいのある職場づくり

3 総合的な自己評価

学校教育目標の実現に向け、重点目標を中心に取り組みを進めてきた。学校評価に係るアンケートにおいて、多くの項目で肯定的評価（「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」）の割合が9割程度である。特に、「学校生活は充実している」と回答した生徒の割合が95%であることは励みとなる。

一方、家庭学習の取り組みやキャリア教育の推進、生徒指導やいじめ対応等について課題がある。特に施設設備に関する課題が大きい。清掃や整理整頓、安全点検などを丁寧に行い、安全で快適な学習環境となるよう、教育委員会と共に改善に努める。また、学習指導に関して、生徒が「できた、わかった」と感じる授業づくりを進め、自らの成長を実感し、自己実現を図れるようにする。

学校評価を踏まえ、生徒の声や姿、保護者の意見などから改善の方針・具体的な手立てを考え、全職員で取り組んで一層の教育活動の充実を図り、「通いたい」「通わせたい」「働きたい」学校をめざす。

PTA、保護者、地域、ボランティアの皆様のご理解・ご協力により、本年度の教育活動が進められたことに感謝する。

4 総合的な学校関係者評価

学校評価アンケートの結果は、生徒・保護者共に肯定的評価の割合が高く、おおむね目標を達成できていると考える。特に、「学校生活が充実している」と回答した生徒が95%程度であることが地域住民として嬉しく思う。また、アンケートを通して、保護者に対して学校教育目標等教育活動を改めて周知することで、家庭と学校が協働して子どもの成長を支える基盤となっている。

学習指導について、校内での組織を活性化させ、研究や研修に取り組んでいることがわかる。特別支援教育の視点を大切に、「授業がよくわかる」という生徒が9割を超えるよう、わかる授業づくりに努めてほしい。課題である家庭学習については、生徒の将来を見据えて指導の工夫をしてほしい。

学校の施設・設備については、学校だけで改善するのは難しい部分もある。市教委と協力しながら、生徒が安全に生活できるよう努力してほしい。生徒自ら掃除に取り組み、校舎の掃除がよくできていることはとても好感がもてる。

学校が保護者や地域へ取り組みを発信し、地域と共にある学校になりつつある。学校運営協議会も地域へ働きかけをしていく。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学習指導 進路指導	わかる喜びと達成感を実感できる学習指導の工夫と授業改善により、基礎基本の定着と学びに向かう力の育成に努める。	・「授業はわかりやすい」と回答する生徒が9割近くで、また、意欲的に取り組んでいる。 一方、家庭学習の取り組み方に課題がある。 ・授業において、タブレット等デジタル活用を進めるなど授業改善を進め、基礎基本の定着に取り組んだ。	・デジタル機器の効果的な活用、わかりやすい説明や考えたくなる発問など、一層の指導方法の工夫改善に努める。 ・家庭学習の習慣化へ向けて、課題への取り組み方の指導、放課後等の学習相談、図書館開放等による読書に親しむ機会の増加などに取り組む。	・「授業がわかりやすい」の割合が9割を超え、基礎基本の定着ができるよう一層の工夫改善を願う。 ・昨年に引き続き、家庭学習の取り組み方に課題がある。小学校と連携して取り組むと共に、家庭への協力依頼や啓発が必要である。 ・地域でも学習支援をしている。学校とつながりを強め、生徒の学びに向かう力の育成に協力する。
	キャリア教育の充実、進路情報の提供、社会参画する機会づくりにより、自尊感情を高め、自己実現を図る。	・行事や生徒会活動など特別活動に積極的に取り組み、学校生活を充実したものにしている。 ・トライやる・ウィークや進路学習など社会的自立に必要な資質・能力を育む学習を行っている。 ・キャリア教育について、保護者の評価は8割に届かず課題である。	・1年生の段階から、職業調べや進路情報を提供したり、体験活動と日常の学習活動をつなげる指導を行う。 ・学ぶことと将来とのつながりを見通したキャリア教育を進め、社会的・職業的自立へ向けた資質・能力を育成する。 ・自己有用感を感じられるよう、行事等特別活動の充実を図り、中学生が地域で活動する機会を増やす。	・小学校や中学校で、基礎基本を定着させるために努力を積み重ねることは、高校進学だけでなく将来社会で活躍するために大切なことである。今の学びと将来の生活や夢がつながっていることを指導し、生徒に意識させてほしい。
生徒指導 いじめ防止	教育相談の充実を図り、生徒の共感的理解に基づいた生徒指導とともに、不登校生徒や発達に係る支援の充実に取り組む。	・教師、SCやSSWにより教育相談ができる体制を整えている。 ・あいさつや時間管理、ルールの順守について、生徒は9割を超える評価で、高い意識を持っている。 ・サポートルームを充実させて登校の支援を行ったり、校外の学習施設と連携するなど継続して不登校対策を行っている。	・生徒指導について、教職員で一層の共通理解を図り、組織体制を強化して指導にあたる。併せて、家庭と連携・協力して生徒の成長を促す。 ・SCやSSWについて、講演会や紹介の機会を増やすなど、身近に感じられる手だてを講じる。 ・生徒による校則検討やあいさつ運動、いじめ撲滅宣言など、生徒の主体的な活動を促進する。	・アンケートの結果を受け止めて、先生方が意思統一して生徒指導に向かってほしい。特に、あいさつや時間、約束を守ることなどは社会に出てから必要な資質である。 ・SCやSSWの配置は、週1回程度では少ないと感じる。 ・不登校対応として、生徒の背景理解や家庭の支援も必要だろう。教育と福祉がつながりをもって生徒や家庭を支援するとよいのではないか。
	本校「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見・早期対応を図る。	・早期発見・早期対応などいじめ対応について、生徒は9割近い肯定的評価だが、保護者は8割強にとどまっている。 ・「先生はよいところを認める」と回答する生徒が9割を超えており、また、保護者も9割近い評価。 ・生徒同士で間違ったことをお互いに注意しあえる関係ができていく。	・「いじめはどこでもどの生徒にも起こりうることである」との認識の下、「いじめ対応チーム」により、小さいいじめも見逃さずに認知し、指導・支援する。 ・よいところを認め合い、間違ったことは互いに注意しあえる関係をつくるなど、いじめに向かわない態度・能力の育成に取り組む。	・先生方が生徒のよいところを認めているのはうれしいことである。継続することで、いじめに向かいにくい風土が作り出せる。 ・時代の流れの中で、指導方法や子どもへの声掛けのしかたも変化している。生徒一人一人に応じた丁寧な指導や支援をお願いする。

研修（資質向上） 環境整備 危機管理	特別支援教育の視点を生かし、個に応じた指導の工夫、すべての生徒にわかりやすい授業改善に取り組む。	・2学期から3学期に授業を参観し合い(互見授業)、めあての設定や振り返り、めあてに迫る方法や発問などについて意見交換し、授業力向上に努めた。 ・特別支援教育に関する研修を重ね、誰にでもわかりやすい授業づくりに取り組んだ。 ・数学と英語において兵庫型学習システムを取り入れ、少人数による個に応じた指導の工夫を行った。	・特別支援教育の視点を活かして、「できた」「わかった」など達成感を感じられる授業づくりを進める。 ・積極的に授業研究や互見授業に取り組み、授業改善を行う。 ・引き続き兵庫型学習システムを取り入れ、個に応じた指導を行うと共に、授業の中に少人数のグループ活動を取り入れて、自分の意見を持ち伝え合う力の育成を図る。	・先生方には、学び続ける姿勢を持ち続けてもらい、生徒がわかったと感じられる授業ができるよう、研究や研修に努めてほしい。 ・子どもたちの生活には、スマホやタブレットが入り込んでいる。効果的な使い方の研究を進め、また情報モラルについても指導してほしい。
	研修・研究体制の充実により、人権感覚・危機管理能力の向上、専門性と実践的指導力、課題対応能力を高める。	・研究推進担当を中心に校内体制をつくり、人権教育や危機管理等に関する研修を行った。避難訓練もテーマを変えて3回行い、指導力や対応力の向上に努めた。 ・生徒は、自分たちで学習環境を整備しようという意識が高い。一方、施設設備については、施設の老朽化やグラウンドが遠いこと、八景坂の整備など課題が多い。	・学び続ける教師・成長し続ける教師をめざして研修・研究に取り組む。効果的なデジタル活用、特別支援教育の視点を生かしたわかる授業づくり、危機対応など専門的知識や指導力の向上、人権意識の高揚に努める。 ・生徒の意欲を活かして学習環境の整備に努め、施設設備の修繕や校地の環境整備は、市教委の協力を得て対応していく。	・校舎の掃除がきれいになってきている。とても良いことである。 ・施設設備について、生徒が安全に学習できるよう市教委と協力してほしい。 ・校区の広い八景中では、交通安全は大きな課題である。4月から自転車も交通反則通告制度（青切符）が開始される。この機会に改めて、並列走行の禁止など交通安全について指導してほしい。
情報提供 保護者・地域との連携	教育活動の公開や学校ホームページの更新など、積極的な情報発信を行い、信頼される開かれた学校づくりを推進する。	・学校ホームページをはじめ、情報発信の評価は高い。保護者や地域の方々が、八景中の教育や生徒への関心を高めるきっかけになっていると考える。 ・保護者連絡について、文書による連絡から電子化に変更した。	・オープンスクールと学校ホームページによる情報発信は定着してきた。今後も八景中の魅力を発信していく。 ・電子化した保護者連絡について、課題を整理し、より効果的に保護者への連絡ができるよう改善する。	・オープンスクールや学校ホームページによる情報発信は充実している。情報発信の手段として、自治会の回覧板などの活用も検討してほしい。
	生徒が地域で活動する機会の充実や地域の教育力を生かした取組みにより、連携と協働の学校づくりを進める。	・生徒や保護者に、地域行事への参加を促すアナウンスを行った。 ・地域の行事に参加したことがある生徒の割合が高くなった。また、「地域や社会のために何かやってみたい」という意欲のある生徒が9割近くいる。 ・学校運営協議会を通じて、地域の協力を得るなど地域と連携した教育活動を推進した。	・地域行事への参加を一層進められるよう、広報や条件整備を進める。 ・学校運営協議会を一層活性化させ、地域と協働した学校づくりを進める。 ・生徒が多様な体験活動ができるよう、そして地域の大人と触れ合い学ぶ機会となるよう地域クラブと連携し、地域展開を支える。	・先生方が地域行事への参加を促してもらえるのは、地域の活性化につながる。これからも継続していただき、地域行事を盛りあげたい。 ・地域としても、中学生の活動について学校と相談しながら充実を図りたい。学校運営協議会が、地域との橋渡しになるなど協力していく。 ・地域防災訓練への中学生の参加なども期待する。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
12月4日～ 12月23日	生徒、保護者、教職員対象にアンケートを実施
1月22日	アンケート結果を保護者に公表
～2月13日	アンケート結果分析および学校自己評価
2月16日	学校自己評価の総括、共通理解
3月9日	学校評価の総括、共通理解

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
7月8日	第1回学校関係者評価委員会(学校教育目標・年間計画等の説明、評価計画)
10月7日	第41回体育大会参観
10月28日	第41回文化祭参観
11月19日	第2回学校関係者評価委員会(学校評価に係るアンケート項目検討)
1月29日	オープンスクール参観
2月17日	第3回学校関係者評価委員会(評価、総括)

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
1月22日	学校ホームページ	学校評価アンケートの結果を保護者に公表	
3月10日	学校ホームページ	「学校評価報告書」を掲載。	
4月	学校だより	令和7年度学校評価結果を踏まえ、令和8年度の取り組み等を説明	

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います